

い ち い

八郎潟中学校
校 報 NO. 6
令和 8 年 9 月 1 日発行

全県少年野球大会、東北大会等の結果

【大会結果】

【野 球】全県少年野球大会

1 回戦 八郎潟 8－2 鳥海
準々決勝 八郎潟 0－7 仙北

【剣 道（清心館小柳道場）】東北大会

女子個人戦 2 回戦 ○○○○

【バドミントン（八郎潟レイクジュニア）】

東北大会

男子シングルス 1 回戦 ○○○○

第 4 5 回全日本ジュニアバドミントン選手権 大会秋田県予選会

ジュニア新人男子シングルス
優勝 ○○○○

【ソフトボール（AKITA_F. SPIRITS）】

第 2 6 回全日本中学生女子大会

2 回戦 AKITA_F. SPIRITS 2－8 草津Smiley



【全県少年野球大会 1 回戦の様子】

全校一丸となって応援し、見事に勝利！！

第21回安全・安心フォーラム

7 月 2 2 日（水）、第 2 1 回安全・安心フォーラムを行いました。秋田地方気象台の地震津波防災官である○○○○をお迎えし、「気候変動による災害リスクの増加」という演題でご講演いただきました。

災害への心構えとして、

- ①災害は「まさか」ではなく「いつか」起きるものと認識！
- ②「自分は大丈夫」とは思わない！
- ③「自らの身は自ら守る」「大切な人の命を守る」という意識を持つ！

の 3 つが紹介されました。温暖化による災害にどのように備えていくか考えるよい機会となりました。



9月の行事予定

1 日（火）全校合唱練習②、八中祭部門会⑦
2 日（水）フッ化物洗口、八中祭部門会⑧
総合 B ⑪
3 日（木）全校合唱練習③、八中祭部門会⑨
4 日（金）八中祭（前日祭）
5 日（土）八中祭
6 日（日）部活動休止日
7 日（月）振替休業日（9／5分）
9 日（水）フッ化物洗口、中央教育事務所所長訪問、選挙管理委員会①
11 日（金）総合 B ⑫（感謝の会）
16 日（水）職員会議、フッ化物洗口、選挙管理委員会②

17 日（木）S C 相談日（13:00～17:00）
19 日（土）市郡秋季大会（振替は、10 月 13 日）
【大会のない生徒（3 年生含む）は、登校。午前日課で 11:00 下校】
20 日（日）市郡秋季大会
21 日（月）敬老の日、秋のミニコンサート（吹奏楽部）
22 日（火）国民の休日、部活動テスト休み（～24 日）
23 日（水）秋分の日
25 日（金）1 学期期末テスト、秋季大会報告会
28 日（月）S C 相談日（13:00～17:00）、専門委員会⑤（前期最終）
30 日（水）八郎潟町 7 0 周年記念式典

令和8年度全国学力・学習状況調査の結果

4月23日(木)に3年生を対象に全国学力・学習状況調査(国語・数学・英語)が行われました。その結果が届きましたので、皆様にお知らせいたします。この調査は、生徒の学力や学びの状況を把握して、よいところは一層の充実を図り、不足している部分については、授業改善や日々の指導の見直しを図ってこうとするものです。

生徒質問用紙では、基本的な生活習慣(朝食を毎日食べる、起床、就寝時刻など)で県平均や全国平均を上回り、「将来の夢や希望がある」「人が困っているときは、進んで助ける」「人の役に立つ人間になりたい」では肯定的な回答が100%でした。学習に関しては、学校の授業以外の1日の学習時間について、「2時間～3時間以内」の割合が、全国、秋田県と比較すると10%以上高い結果となりました。

	国 語 (正答率)	数 学 (正答率)	英 語 (IRTスコア)
八郎潟中学校	72	73	534
秋田県	67	58	489
全国	63.9	57	499

IRTスコア…項目反応理論。問題の特性(難易度や識別力等)と各生徒の学力を分けて考える枠組みであり、いくつかの手続きを経ることで、異なる時点、問題、生徒集団等で実施した場合であっても、その結果を相互に比較できる。

《数学》

次の図2は、前ページの方法によって作図したものです。この図2において、 $\angle QOD$ が $\angle XOY$ の2倍の大きさであること、つまり $\angle COD = \angle COQ$ であることの証明を考えます。

そこで、方法の①、②のそれぞれから直接わかることを仮定とし、証明することが次のように表します。

図2において、
☐ ①、☐ ② ならば $\angle COD = \angle COQ$ である。

上の ☐ ① には、図2において方法の①から直接わかること、
☐ ② には、図2において方法の②から直接わかることが入ります。
☐ ③、☐ ④ のそれぞれに当てはまるものを、下のAからオまでのの中から1つずつ選びなさい。

A $CD = CQ$
 イ $OD = OQ$
 ウ $\angle ODC = \angle OQC$
 エ $\angle COD = \angle COQ$
 オ $OX \perp CD$

《英語》

次の文章は、留学生(exchange student)のジャック(Jack)が日本の学校で体験したことを題材にした【物語】です。【【物語】のはじめから終わりまで、ジャックの気持ちがどのように変化してきたかをまとめたもの】として最も適切なものを、＜解答欄＞の1から4までの中から1つ選びなさい。

【物語】

Jack studied Japanese at school when he was in Australia. The school decided to send him to Japan as an exchange student, so he was excited about studying in Japan.

At school in Japan, Jack made a short speech in Japanese. When he was speaking Japanese, he made mistakes. He thought his classmates did not understand his speech. He felt sad, but he finished his speech.

Later at lunch time, a girl came to Jack and said, "I'm Misato. Your speech was great! I was able to understand your Japanese." Jack smiled and said, "Thank you for your kind words." He felt happy. After that, he tried to use Japanese more.

＜解答欄＞

☐ 1 Jack was excited about studying in Japan. At school in Japan, he felt happy when he heard Misato's kind words. Later, he felt sad during his speech in Japanese.

☐ 2 Jack studied Japanese at school in Australia. At school in Japan, he felt happy when he heard Misato's kind words. Later, he felt sad during his speech in Japanese.

☐ 3 Jack was excited about studying in Japan. At school in Japan, he felt sad during his speech in Japanese. Later, he felt happy when he heard Misato's kind words.

☐ 4 Jack studied Japanese at school in Australia. At school in Japan, he felt sad during his speech in Japanese. Later, he felt happy when he heard Misato's kind words.

《国語》

話合いを受けてどのような意見を述べるかという自分の考えを書く問題では全国・全県平均を12.9%上回っています。小学校と連携し、表現する場を意図的に設定し、表現活動の一層の充実を図った成果だと考えられます。しかし、書いた文章について、交流を基にして、この文章のよい点や改善点と今後随筆を書くときに生かしたいことを答える問題で、全国全県平均を12.9%下回っています。今後は他の意見を基に自分の考えを述べる活動を授業や表現集会で意図的に取り入れていきます。

《数学》

$\angle AOB$ の大きさが a° のとき、 $\angle POB$ の大きさを a を用いた式で表す問題では、県平均を26.6%上回る結果となっており、文字を用いて様々な数量を分かりやすく表したり、説明したりする活動を充実させてきた成果と考えられます。領域別では、「数と式」で11.9%、「図形」で19.3%、「関数」で17.9%、「データの活用」で9.5%と全ての領域で県平均を上回っており、基本的な知識を正しく身に付けていることが分かります。また、記述式で回答する問題の正答率が約60%で、県平均を20%程度上回っていることから、身に付けた知識を活用する力も身に付いていることが分かります。今後も、生徒の問いを大切に授業づくりに取り組んでいきます。

《英語》

CBT方式(Computer-based Test)コンピュータ使用型調査で行いました。全県平均と比べて特に正答率が高かった問題は、与えられた情報に基づいて留学生の昨日の出来事を説明する英文を書く問題です。2問ありましたが、全県平均をそれぞれ21.5%、27.3%上回っていました。全時間ALTを含む3人のチームティーチングの利点を生かし、書く活動の際にはその場で個々に応じた添削ができていた成果と考えられます。合計点では全県平均を上回っているものの、物語を読み、物語全体を通した登場人物の気持ちの変化を表したものを選択する問題では県平均を27.8%下回っています。今後ある程度長い英文でも、要点を拾いながら読む練習が必要だと考えられます。